

史学専攻

Graduate School of Humanities / Major in History

募集人員：修士課程 15名／博士後期課程 2名 | 開講形態：**昼夜開講** | キャンパス：市ヶ谷
主な進路：教員、公務員など

日々進化する歴史学。 あなたの眼で歴史を発見しよう。

日本史（考古学・古代史・中世史・近世史・近現代史の5領域）、東洋史、西洋史の3分野にわたる多彩な授業を展開しています。

歴史学は長い伝統を持ち、日々、学説の前進・更新・進化が続く学問です。近年、歴史学は人類史的視点により一層進化しました。本専攻は、史（資）料批判を通して自ら歴史像を再構成するという伝統的な研究方法を重んじ、同時に最新の研究方法・成果も取り入れています。そして、歴史学の発展に寄与することを目指しています。

本専攻の修了者は、大学・高校・中学の教員、博物館の学芸員、資料館・文書館の専門職員（アーキビスト）、図書館の司書、都道府県史・市町村史の編纂員、文化財保護事業の専門職員などの諸分野で活躍しています。

アドミッション・ポリシー

（学生の受け入れ方針）

多様な志向の入学を受け入れる。研究者を目指す者、研究や再学習を希望する高度職業人、歴史に深い関心のある高度教養人などを想定。そのため、入学の機会を多くし、門戸を広くしている。入試は年度内に2回、社会人入試制度、他大出身者の受け入れを実施している。また、入学志願者の意欲や適性・能力を総合的に判断するため、筆記試験・口述試験・提出論文や研究計画書の審査を組み合わせている。

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施方針）

考古学・古代史・中世史・近世史・近現代史という日本史の全時代にわたる科目を設置。東洋史・西洋史もこれに準じている。また、アーカイブズ学、文書館管理研究などの実務系科目を設置。専門とする時代や分野を問わず共通して役立つスキルが習得できる。多様な学生の生活時間に合わせるため、科目選択の幅を広くしている。博士後期課程の在籍者が、修士課程と同一科目の履修ができることも特徴である。

ディプロマ・ポリシー

（学位授与の方針）

学位授与に当たっては、次の能力・スキルを身に付けることを定めている。史料批判を通して歴史像を再構成することができる実証的研究能力とスキル。独創性のある課題を設定し、その解決に必要な史料の収集・整理・分析と、成果をまとめて発表する能力とスキル。発表・討論・質疑応答などの学術性を備えたコミュニケーション能力とスキル。生涯にわたって研究・学習意欲を持ち、過去・現在・未来を展望、考察する歴史的思考力。

研究室紹介

物質資料に語る考古学の魅力

小倉准教授 | 日本考古学、特に東日本の弥生時代社会の研究

研究室には先史考古学から歴史考古学までさまざまな時代と資料を研究する院生が所属し、発表や議論を行っています。考古学資料はそれ自身では情報を発しませんが、さまざまな角度から光を当ててやることで、知られざる側面をいくつも見せはじめます。その手法や手続きについて相互に検討し、資料に物語らせながら立論することで自己研究を深めていくことを期待しています。私自身は弥生時代社会に関する研究を土器や集落の面から進めており、文献資料に表れない人間集団の選択や動向をつかんでいくことを目指しています。研究室では所蔵する資料の整理も実習的に進めており、考古学資料からいかに情報を引き出しまとめるかについて、実践的な検討も行っています。

※本専攻には、日本考古学から日本近現代史、あるいは東洋史や西洋史分野を扱う、全部で10の研究室があります。



Voice



修士課程 2014年度修了
就職先：株式会社アトラス
田上 慎一

〔研究テーマ〕
昭和戦前・戦中期における中央政界と地方の動向

太平洋戦争という大きな課題に挑戦。 ここで得た知識や成果を社会に還元することが目標

私の研究

日本近代史を専攻し、特に昭和戦前・戦中期における政治状況を地域の視点を重視しながら研究を行いました。「なぜ太平洋戦争は起こったのか？」という大きな研究課題を考える上で、私は国家を底辺で支える地域とそこに暮らす人びとの視点が重要だと考えました。そこで、長野県で地域に根ざして活動していた政治家を対象として、この時期の政治状況を研究しました。

将来の目標

大学院で得られた知識や技術、成果を社会に還元することが将来の目標です。ここ数年、歴史学に対する社会的な関心が高まっていると感じます。自分や自分の先祖がどのようなルーツを歩んだかをまとめたい、防災を目的に過去の土地利用を学びたいなどその動機はさまざまだと思います。私は、こうした「学びたい、知りたい」という想いを支える活動を起こしたいと考えています。

■専任教員と担当科目（2016年度）※年度により授業を持たない場合があります。 専 専門領域 研 研究テーマ 担 担当科目

<日本史分野>

小口 雅史 教授 専 日本古代史、東アジア比較法制史、日本北方史

研 日本古代社会経済史、日中比較律令法（土地法）史、蝦夷論、敦煌・吐魯番学

担 日本古代史演習Ⅰ～Ⅳ

長井 純市 教授 専 日本近現代史

研 日本近現代史における政治指導、明治国家における地方制度整備をめぐる政治過程

担 日本近代史特殊研究Ⅰ／Ⅱ 日本近代史演習Ⅰ／Ⅱ 文書館管理研究Ⅱ 日本近代史研究Ⅰ／Ⅱ

大塚 紀弘 専任講師 専 日本中世史

研 中世の対外交渉および仏教に関する研究

担 日本史学原典研究Ⅰ／Ⅱ 日本中世史特殊研究Ⅰ／Ⅱ 日本古文書学Ⅰ／Ⅱ

<東洋史分野>

塩沢 裕仁 教授 専 中国史・物質資料学

研 漢・魏晉南北朝・隋唐の都城考古学

担 東洋史学特殊研究Ⅰ／Ⅱ

<西洋史分野>

加納 格 教授 専 西洋史・ロシア地域研究

研 ロシア近現代史、ことにロシアの民主化プロセス

担 西洋史学演習Ⅲ／Ⅳ ヨーロッパ現代政治史研究Ⅰ／Ⅱ

中村 純 教授 専 西洋古代史

研 古典期アテネの政治と社会

担 西洋史学演習Ⅴ／Ⅵ

■設置科目（2016年度）※開講科目は年度により異なります。（ ）内は単位数

<修士課程>

日本史学Ⅰ／Ⅱ（各2）

日本史学原典Ⅰ／Ⅱ（各2）

日本古代史特殊研究Ⅰ／Ⅱ（各2）

日本中世史特殊研究Ⅰ～Ⅳ（各2）

日本近代史特殊研究Ⅰ～Ⅳ（各2）

日本近代史特殊研究Ⅰ～Ⅳ（各2）

日本考古学特殊研究Ⅰ～Ⅳ（各2）

日本古代史演習Ⅰ～Ⅳ（各2）

日本中世史演習Ⅰ／Ⅱ（各2）

日本近世史演習Ⅰ／Ⅱ（各2）

日本近代史演習Ⅰ／Ⅱ（各2）

日本考古学演習Ⅰ／Ⅱ（各2）

日本古文書学Ⅰ／Ⅱ（各2）

日本古代史研究Ⅰ／Ⅱ（各2）

日本古代史料研究（2）

日本中世史研究（2）

日本近世史科学研究Ⅰ／Ⅱ（各2）

日本近代史研究Ⅰ／Ⅱ（各2）

沖縄学入門Ⅰ／Ⅱ（各2）

東洋史学特殊研究Ⅰ～Ⅳ（各2）

東洋史学演習Ⅰ～Ⅵ（各2）

東洋古代史研究Ⅰ／Ⅱ（各2）

東洋中世史研究Ⅰ／Ⅱ（各2）

東洋近代史研究Ⅰ／Ⅱ（各2）

西洋史学特殊研究Ⅰ～Ⅳ（各2）

西洋史学演習Ⅰ～Ⅵ（各2）

西洋古代史研究Ⅰ／Ⅱ（各2）

西洋中世史研究Ⅰ／Ⅱ（各2）

ヨーロッパ現代政治史研究Ⅰ／Ⅱ（各2）

アーカイブズ学Ⅰ／Ⅱ（各2）

文書館管理研究Ⅰ／Ⅱ（各2）

記録史科学研究Ⅰ／Ⅱ（各2）

記録史学演習Ⅰ／Ⅱ（各2）

外書講読Ⅰ／Ⅱ（各2）

<博士後期課程>

史学特殊講義Ⅰ～Ⅳ

史学特講演習Ⅰ～Ⅳ

史学特殊研究Ⅰ～Ⅳ

史学特研演習Ⅰ～Ⅳ

■修了生の研究テーマ

- 日本古代の動農について 一律令国家による動農の成立から終焉へ
- 鎌倉期得宗＝被官関係の研究
- 琉球処分初期（前）段階の動向と認識
- 近世後期の村社会における女性の位置と役割 一女性家主の活動を中心に
- 大正・昭和戦前期における貴族院改革運動